



トヨナカ アーツ トライブ #3
トランス ミュージック フェスティバル 2020
- ザ・ボディ -

「身体・楽器・声」3つの「-the body-」がTRANCEする
固定概念を飛び越えた先を体感せよ。

開催趣旨

デジタル化された音楽や映像を、ネットを介して誰もがどこでも気軽に楽しむことができる時代。そんな時代に生きる私たちだからこそ、一つの作品を他者と同空間・同時間で体感するという行為自体が、これまで以上にある種特別なものとなっています。

豊中市立文化芸術センターでは、唯一無二となるこの「特別」な空間を、今を生きるアーティストとともに作り出す挑戦的シリーズ「TOYONAKA ARTS TRIBE」を2019年3月よりスタートいたしました。

そして、第3弾として実施するのが「TRANCE MUSIC FESTIVAL 2020 - the Body -」です。

音楽の本質を探る「トランス」を大きなテーマとし、さらに2020では「音」が発せられる“body= 肉体、身体、本体、共鳴部”に焦点をあてます。今回はこのテーマで臨む3つのコンサートを1日で実施。人間の声をつかったパフォーマンスで、日本各地で公演をおこなっている宮内康乃の率いる「つむぎね」。身体にスポットを当て、毎年挑戦的なプログラムで精力的に活動する「いまいけぷろじえくと」に1年目に引き続き三輪眞弘が自身のユニット フォルマント兄弟として参加。さらにピアニスト中川賢一と関西を拠点に活動をするマリンバ・打楽器奏者宮本妥子を迎え、「身体」「声」「楽器」の3つの側面から音楽の本質を探っていきます。

第20回佐治敬三賞推薦コンサート

開催情報

**トヨナカ アーツトライブ #3
トランス ミュージック フェスティバル 2020
- ザ・ボディ -****人体のTRANCE「人体音楽祭～身体なき声なき身体～」**

開催日時 2020年2月29日（土）開場12:30／開演13:00

会場 豊中市立文化芸術センター 多目的室

出演 いまいけぶろじえくと（今村俊博、池田萌）、フォルマント兄弟（三輪真弘、佐近田展康）

ピアノとパーカッションのTRANCE「in search of the Lost ()」

開催日時 2020年2月29日（土）開場15:00／開演15:30

会場 豊中市立文化芸術センター小ホール

出演 中川賢一、宮本妥子

声のTRANCE「◎」

開催日時 2020年2月29日（土）開場18:00／開演18:30

会場 豊中市立文化芸術センター展示室

出演 つむぎね（宮内康乃、浦島晶子、筒井キリイ、ツダユキコ、八幡麻美、横手ありさ）

主催 豊中市市民ホール指定管理者

助成 **NOMURA** 野村財団チケット 全席自由 各 1,800円 club CaT 1,500円
3公演セット券 5,000円 club CaT 4,200円

※未就学児の入場はご遠慮ください。

※障害者割引あり。障害者とその介助者（1名まで）2割引。

（豊中市立文化芸術センター・ローズ文化ホールのための取扱）

※小ホール車いす席は、文化芸術センターチケットオフィス窓口・電話のみの取扱。

発売日 club CaT先行販売期間 2019.11/27（水）－12/3（火）

一般発売日 2019.12/4（水）－

販売場所 豊中市立文化芸術センター チケットオフィス 06-6864-5000（10:00～19:00月曜・年末年始休館）

オンラインチケット <http://www.toyonaka-hall.jp/ticket/>

豊中市立ローズ文化ホール窓口 06-6331-7961（火曜・年末年始休館）

ローソンチケット【Lコード：56194】Tel.0570-084-005

企画コンセプト

はじめに

様々な文化や価値観があふれる現代社会において、多様な文化芸術の保護及び発展を図っていく事が現代では求められています。このため、豊中市立文化芸術センターでは、音楽分野においてクラシック音楽というカテゴリーに固執するのではなく、これまでになかった表現、芸術的価値を提供している現代を生きる作曲家、アーティストの作品を取り上げ、共に制作し紹介する事で、新たな文化・芸術的視点を広げる事を目的としたシリーズを2019年3月よりスタートいたしました。アーティストたちが活躍でき、彼らの自主性、創造性が十分に尊重され、さらには能力を存分に発揮できる場を提供するために継続して実施しています。

今回のTRANCE MUSIC FESTIVAL 2020は、基本理念はそのままに、通常では体験できない公演を紹介する事はもちろんのこと、若手アーティストを二組招聘し、彼女たちの作品を紹介します。

アーティストたちが活躍できる場を豊中市立文化芸術センターに作りだし、さらに今まで知らなかったアートを追求できる市民・聴衆を育てていく事で、様々なアートを享受できる環境づくりを一つの使命として取り組む。豊中市立文化芸術センターの挑戦的プログラムシリーズにどうぞご期待ください。

TOYONAKA ARTS TRIBE とは

デジタル化された音楽や映像をネットを介して誰もがどこでも気軽に見れる時代。そんな時代だからこそ、一つの作品を他者と共有しながら同空間で体感するという行為はこれまで以上に「特別」なものとなってきています。TOYONAKA ARTS TRIBEは、今を生きるアーティストの作品上演を中心にこの「特別」な空間を作りだし、豊中市立文化芸術センターの挑戦的プログラムの総称です。

TRANCE MUSIC FESTIVAL とは

2019年3月1日に始動したノーボーダーの音楽イベント。通常のいわゆるクラシックコンサートからは距離を取り、空間全体を音楽と共にコンポジットし、その時間だけでしか体験できない空間をつくりだす。全体テーマを「TRANCE」とし、古来より人々の生活に密着してきた音楽を、この「TRANCE」というフィルターを通して本質に探ることを目的としている。TRANCE MUSIC FESTIVAL 2019では、「クラブミュージック」「現代音楽とダンス」「ガムラン」の3つの公演を行った。

2020年度 コンセプト

- the body -

body 【他動】～を具体化する、～に形を与える

【名】（複 -ies） 1. 体、肉体、身体 2. 《解剖学》（手・足・首を除いた）胴体；（物・道具の）本体、主要部；（楽器の）共鳴部；（植物の）幹；車体、船体、飛行機の胴体

音を発する身体=the body

それは、楽器だけにとどまらず身体もまた音楽を奏する。

2回目となる"TRANCE"は、音を発するbodyそのものにスポットをあて

「身体」「声」「楽器」の3つのカテゴリーのコンサートを実施する。

公演プログラム

開場12:30／開演13:00

人体のTRANCE「人体音楽祭～身体なき声なき身体～」

名古屋、東京を中心に定期的に自らのイベントを実施し続ける、今注目の若手パフォーマンスデュオ「いまいけぶろじえくと」。現代音楽の作曲家だけではなく、劇作家、ダンサー／振付家に音楽作品を委嘱したり、演奏会のゲストに俳優を招いたり、「演奏会」という枠組みにとられない活動を続けてきました。

一方、三輪眞弘と佐近田展康によるフォルマント兄弟は、人工合成によって身体なき声の神秘を追求し、人工音声の連弾演奏でリアルタイムに言葉を発する事で可能にしたパフォーマンス「兄弟 de ピザ注文」(2003)や、亡きロックスターに日本語で革命家インターナショナルを歌わせる「フレディの墓／インターナショナル」の作品を発表。近年では、MIDIアコーディオンをインターフェイスにし人工音声でムード歌謡をうたう「夢のワルツ」(2012)、兄弟式国際ボタン音素変換標準規格によるラテン語の歌唱に挑戦した「PR(L)ALING VOICE/STABAT MATER」(2015)など精力的に活動を続けています。

この、音楽に対するアプローチがまったく違う両者が出会い「声」を媒介としてコミュニケーションする事で身体の本質に迫る人体音楽祭を、TRANCE MUSIC FESTIVAL2020のオープニングとして実施します。

音楽とは何か。身体とは何か。声とはなにか。
そして、そこにある音楽とは何か。

【プログラム構成】三輪眞弘

【出演】いまいけぶろじえくと（今村俊博、池田萌）
フォルマント兄弟（三輪眞弘、佐近田展康）



1. フォルマント兄弟



2. いまいけぶろじえくと

アーティスト紹介

いまいけぶろじえくと（今村俊博、池田萌）

作曲家兼パフォーマーの今村俊博（東京都在住）と池田萌（名古屋市在住）によるユニット。2014年から2019年にかけて、9回の単独公演を東京・名古屋で開催。トーキョーワンダーサイト（現TOKAS）オープンサイト2016-17参加企画に選出（第5回東京公演）。サウンドパフォーマンス・プラットフォーム2018出演。

フォルマント兄弟（三輪眞弘、佐近田展康）

フォルマント兄弟（Formant Brothers）は、三輪眞弘（兄）と佐近田展康（弟）という父親違いの異母兄弟によって2000年に結成された作曲・思索のユニット。テクノロジーと芸術の今日的問題を《声》を機軸にしながら哲学的、美学的、音楽的、技術的に探求し、21世紀の《歌》を機械に歌わせることを目指す。

これまで発表したおもな作品には次のものがある。トランペットの音を声に変換し歌わせる作品「La internacio」(2001、曾我部清典『トキノコダマ2』ALM RECORDSに収録)。人工音声の連弾演奏で宅配ピザを注文するパフォーマンス「兄弟 de ピザ注文」(2003)。「録楽」と名付けた音楽の在り方を考察し亡きロックスターに日本語で革命歌インターナショナルを歌わせる「フレディの墓／インターナショナル」(2009、Prix Ars Electronica 2009 入賞)。兄弟式日本語鍵盤音素変換標準規格によりMIDI鍵盤でマイクロトータルなコブシを歌わせる「NEO都々逸 六編」(2009)。「高音キン」なる声キャラクターを設定し東北地方の民謡に取材したレゲエ風ダンス音楽「せんだいドドンパ節」(2010)。MIDIアコーディオンをインターフェイスにし蛇腹の表現力で切々と酒場を流すムード演歌「夢のワルツ」(2012)。兄弟式国際ボタン音素変換標準規格によりラテン語の「祈り」の歌唱に挑戦した「PR(L)AYING VOICE / STABAT MATER」(2015)など。

また作品と一体となったテクノロジー論／芸術論の言説でも注目を集め、声・機械・身体・メディアの亡霊性をめぐる議論をインсталレーション展示（「フォルマント兄弟のお化け屋敷」2010）、レクチャー・パフォーマンス、ビデオ・プレゼンテーション等さまざまな形式で発表するとともに、東京藝術大学、ロンドン・グリニッジ大学、東京大学、日本記号学会などで講演発表・シンポジウム登壇等を行う。

公演プログラム

開場15:00／開演15:30

ピアノとパーカッションのTRANCE「in search of the Lost ()」

ピアノとパーカッション、それに加わる電子音の共演。音が支配するトランスの世界。ピアノの半ば暴力的なまでの音。パーカッションの叫び。失われた()を求めて、小ホールにつくりだす唯一無二の空間を旅する公演。テーマを基に選ばれた作品を、ただ羅列して上演するのではなく、ホールの中に一つの世界観をつくりだし、リサイタルとは違った演出方法でオーディエンスを空間に没入させることで、より作品世界へと誘います。

【プログラム構成】中川賢一

【出演】中川賢一、宮本妥子

【プログラム】

阿部勇一：アルズィ・ヤナポチャヌア・マウア

L.フェラーリ：即興の練習 #4

中村典子：ホカヒ

ヤコブTV：The Body of your dream

J.ササス：マトルズダンス

L.フェラーリ：即興の練習 #7

S.ホトキンソン：ケルベロス

M.カーゲル：MM51

L.フェラーリ：失われたリズムを求めて

※作品は予告なく変更になる場合がございます。



5. 中川賢一 ©Shuhei NEZU



6. 宮本妥子

アーティスト紹介

中川賢一

桐朋学園大学でピアノと指揮を学び、卒業後、ベルギーのアントワープ音楽院ピアノ科首席修了。1997年オランダのガウデアムス国際現代音楽コンクール第3位。1998年に帰国後、ソロ、室内楽、指揮で幅広く活躍。NHK-FM 多数出演、新作初演も多い。サントリーサマーフェスティバル、東京の夏音楽祭、武生国際音楽祭に度々出演。現代音楽アンサンブル「アンサンブル・ノマド」のピアニスト、指揮者。夏木マリの「印象派」シリーズ連続出演や、故・頼近美津子、伊藤ひろ子、平野文等との朗読と音楽など、他分野とのコラボレーションも活発。「Just Composed in Yokohama 2003」、2004年「超難解音楽祭」(仙台)音楽監督・プロデュースなども行う。東京室内歌劇場においてP. グラス作曲「流刑地」、P. ヒンデミット作曲「往きと帰り」、M. ナイマン作曲「妻を帽子と間違えた男」などの現代オペラを指揮する他、芥川也寸志作曲のオペラ「ヒロシマのオルフェ」では広島交響楽団と共演。最近ではタップダンサーの熊谷和徳との共演で東京フィルハーモニー交響楽団を指揮。東京フィル、札幌、水戸室内管等でピアノ演奏とトークを交えたアナリーゼ等を展開。お茶の水女子大学、桐朋学園大学非常勤講師。2001年度宮城県芸術選奨新人賞受賞。

<http://www.nakagawakenichi.jp>

宮本妥子

同志社女子大学学芸学部音楽学科打楽器専攻卒業、ならびに同大学音楽学会《頌啓会》特別専修課程修了。ドイツ国立フライブルク音楽大学大学院を経てソリスト科を首席最優秀にて修了。ドイツ国家演奏家資格(Konzertexamen)首席取得。数々の国際コンクールで入賞、優勝。滋賀県文化奨励賞、平和堂財団芸術奨励賞を受賞。これまで世界10カ国以上の現代音楽祭でソリストとして招待演奏するなど欧米各地で高い評価を得る。帰国後、一般社団法人地域創造の公共ホール音楽活性化事業協力アーティストとして、全国各地でのアウトリーチ活動を行う。若手音楽家育成事業「湖鼓から未来へ」のプロデュースを手掛け、2016年に「宮本妥子と打楽器アンサンブル「湖鼓」」を結成。2010年より滋賀県文化審議委員を6年間、次世代育成部会委員を4年間務め現在は滋賀県立石山高等学校音楽科、相愛大学音楽学部・同大学院非常勤講師、同志社女子大学学芸学部音楽科嘱託講師を務めるなど、多方面で活躍。パール・アダスモニターアーティスト。<http://www.yasukomiyamoto.com/>

公演プログラム

開場18:00／開演18:30

声のTRANCE「◎」

楽譜ではなく、呼吸などをベースにした単純で有機的なルールをもとに音を紡ぎ出していく独自の表現により生み出されるつむぎねの作品を上演します。主に声を用い、空間全体を使った演出で、根源的な響きに没入していくような音空間を展開します。また、今回は観客参加型に挑戦し、アーティストとオーディエンスの境界線をなくし、相互的に関係し合いながら一体となってTRANCEへと向かっていくような新たな表現に取り組みます。

【参考】

<http://tsumugine.com/category/movie/>

【プログラム構成・演出・作曲】宮内康乃

【出演】つむぎね（宮内康乃、浦島晶子、筒井キリイ、ツダユキコ、八幡麻美、横手ありさ）



7. つむぎね ©Masumi Kawamura



8. つむぎね ©愛知県芸術劇場

アーティスト紹介

つむぎね（宮内康乃、浦島晶子、筒井キリイ、ツダユキコ、八幡麻美、横手ありさ）

2008年より作曲家・宮内康乃を中心に結成した、女性たちによる音楽パフォーマンスグループ。楽譜ではなく、呼吸などをベースにした単純で有機的な単純なルールをもとに音を紡ぎ出していく独自の表現により演奏を行う。おもに声や鍵盤ハーモニカを使い、個々がそれぞれ音の粒子となり、その粒子が複数重なりあって、変化、融合することで空間上の響きを紡ぎ出していくパフォーマンスを展開する。また、光や空間の演出も含めて全感覚的に表現するような、独自のスタイルの確立を目指している。近年はパフォーマンスを演者だけでなく観客も参加し、その場にいる誰もが音空間の一要素となるような、より一回性のspontaneousなパフォーマンスへの発展に挑戦している。Tokyo wonder site主催「Experimental sound, art and performance festival 2008」にて最優秀賞受賞。

つむぎね www.tsumugine.com/

関連イベント

声のTRANCE「◎」終演後、展示室で各公演の出演者によるクロストークを実施。「TRANCE」「音楽」そして「現代」との関係を中心に本イベントのしめくくりとして、アーティストによる言葉によって「音楽の本質」にせまっていきます。

豊中市立文化芸術センター（豊中市市民ホール 指定管理者）
〒561-0802 大阪府豊中市曽根東町3-7-2
TEL：06-6864-3901（火～日 9:00～20:00 月曜休館）
<http://www.toyonaka-hall.jp/>

公演内容・取材について

e-mail: inoue@toyonaka-hall.jp

担当：井上

・電車でお越しの場合

阪急宝塚線「曽根」駅より東へ約300メートル 徒歩約5分

・駐車場

地下（有料）75台

初めの30分は無料。その後30分毎100円。



9. チラシ

画像使用についての注意

- ・このプレスリリースに掲載されている画像データを広報用にお貸し出いたします。末尾の「申込書」をご使用ください。
- ・画像を媒体掲載されるときには、「申込書」に画像とともに送りするクレジット等を、必ずご記載願います。
- ・画像データ使用は、公演終了までとさせていただきます。
- ・画像の二次利用や転載はお断りいたします。
- ・基本情報・画像キャプションなどの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階で担当者までメールまたはFAXにてお送りください。
- ・本公演に関する記事をご掲載いただきました際には、掲載出版物または録画メディアを担当者に送付願います。
- ・インターネットに掲載した場合は、URLをお知らせください。

豊中市立文化芸術センター 事業担当者宛

Email : inoue@toyonaka-hall.jp

FAX : 06-6863-0191

広報画像申込書

TOYONAKA ART TRIBE #3

トランス ミュージック フェスティバル 2020 ーザ・ボディー

2020年2月29日（土）

※ご希望の画像の番号に○をつけてください。

1	フォルマント兄弟
2	いまいけぷろじえくと
3	中川賢一 ©Shuhei NEZU
4	宮本妥子
5	つむぎね ©Masumi Kawamura
6	つむぎね ©愛知県芸術劇場
7	チラシ

※媒体情報についてお知らせください（全てご記入願います）。

媒体名：

掲載・放送予定日：

貴社名：

部署名・ご担当者名：

所在地： 〒

Email：

TEL：

FAX：